

(7) コミュニティ・スクールの設置

対象高校	実施年度	設置学科	備 考
多 古	24年度	普通科 農業に関する学科	・コミュニティ・スクールを設置
長 狭 (再掲)	24年度	普通科	・コミュニティ・スクールを設置 ・医療・福祉コースを設置 (H26)

【再編の内容】

- ・保護者や地域住民が、合議制の機関である学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任を持って、教育委員会、校長と責任を分かち合いながら学校運営に携わっていくことで、地域に開かれた、地域に支えられる、より良い教育の実現を目指すコミュニティ・スクールを多古高校と長狭高校に設置します。

2 職業系専門学科・コース

(1) 農業に関する学科の学科再構成

対象高校	実施年度	備 考
農業に関する 学科設置校	30年度	・農業に関する学科を、次の6学科に再構成 <u>園芸科</u>：基礎から幅広く農業を学ぶ学科 農業科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術等を学ぶ学科 畜産科：家畜の飼育の知識と技術等を学ぶ学科 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科

【再編の内容】

- ・農業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更など学科再構成を行います。

高校名	現在の学科	→	再構成
流 山 高 校	園芸科	}	園芸科
	生活科学科		
成 田 西 陵 高 校	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	環境建設科	→	土木造園科
	生産流通科	→	食品科学科
下 総 高 校	生産技術科	→	園芸科
多 古 高 校	生産流通科	→	園芸科
旭 農 業 高 校	畜産科		(変更なし)
	生産技術科	}	園芸科
	生活科学科		
	食品流通科	→	食品科学科

高校名	現在の学科	→	再構成
大 網 高 校	生産技術科	}	農業科
	農業経済科		
	食品工業科	→	食品科学科
	生物工学科		(変更なし)
茂 原 樟 陽 高 校	生産技術科	→	農業科
	生産流通科	→	食品科学科
	緑地計画科	→	土木造園科
鶴舞桜が丘高校	食とみどり科	→	園芸科

・薬園台高校、清水高校及び上総高校における農業に関する学科については、
現行の学科名とします。

【教育内容等】

- ・学科の再構成に当たっては、農業に関する学科を設置するすべての学校において、現状の学習内容を継承しつつ、基礎学力の定着に向けた取組や進学への対応など、必要に応じて教育課程の見直しを行います。
- ・各校の特徴を生かした農業教育を展開するとともに、6次産業化など農業施策と整合した教育活動に積極的に取り組みます。
- ・各校が、農業教育の拠点校である茂原樟陽高校や農業中心校の実践で得られた成果を共有するとともに、農業高校を支援する組織等の協力を得て、積極的に関係機関との連携による教育活動を実施し、県全体の農業教育の底上げを図ります。
- ・地域や学校の実態を踏まえ、魅力ある学校づくりを推進します。

県立学校改革推進プランに係る評価（平成30年度再編実施分） 抜粋

2 職業系専門学科・コース

（1）農業に関する学科の学科再構成

職業系専門学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 地域のニーズや地域性を踏まえた学校配置、学科の検討を行い、必要に応じて、わかりやすい学科名への変更などを含めた学科再構成等を行います。
- 担い手育成や6次産業化※₁といった農業施策と整合した教育の推進に留意しながら、他校・他学科をはじめ、小・中学校や農業大学校等の教育機関、行政機関及び地域の諸団体等との連携を推進し、教育内容の充実を図ります。

ア 農業に関する学科の学科再構成（第3次実施プログラム）

○対象校及び再編の内容（プログラムより抜粋）

高校名	現在の学科	→	再構成
流 山 高 校	園芸科	→	園芸科
	生活科学科		
成 田 西 陵 高 校	生産技術科	→	園芸科
	生活科学科		
	環境建設科	→	土木造園科
	生産流通科	→	食品科学科
下 総 高 校	生産技術科	→	園芸科
多 古 高 校	生産流通科	→	園芸科
旭 農 業 高 校	畜産科		（変更なし）
	生産技術科	→	園芸科
	生活科学科		
	食品流通科	→	食品科学科

高校名	現在の学科	→	再構成
大 網 高 校	生産技術科	→	農業科
	農業経済科		
	食品工業科	→	食品科学科
	生物工学科		（変更なし）
茂 原 樟 陽 高 校	生産技術科	→	農業科
	生産流通科	→	食品科学科
	緑地計画科	→	土木造園科
鶴舞桜が丘高校	食とみどり科	→	園芸科

- ・農業に関する各学科について、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい学科体系及び名称とするため、学習内容に基づいて次のとおり学科名の変更など学科再構成を行います。
- ・薬園台高校、清水高校及び上総高校における農業に関する学科については、現行の学科名とします。

イ 実施状況

- ・拠点校（茂原樟陽高校）が中心となって運営しているアグリサポーターズちばの仲介によって、地元農家でインターンシップを行う仕組みを整えています。
- ・地元名産の「多古米」や千葉県育成品種「チーバベリー」の生産実習を行うなど、県の農業施策と整合した教育を展開しています。

第6次産業※₁：生産から加工、販売まで一元的に実施する産業。

- ・各学校では、県立農業大学校が実施する農業教員研修に参加するなど、外部機関との交流を図っています。
- ・茂原樟陽高校では、農業生産工程管理（以下GAP※₂）認証に係る5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躰（習慣））について全校をあげて推進する体制作りが進んでいます。



【生産実習の様子①】



【生産実習の様子②】

ウ まとめ

(ア) 成果と課題（○成果・●課題）

- 学科名から教育内容がわかるようになり、学習内容を理解した上で入学する生徒が多くなっています。
- 拠点校（茂原樟陽高校）を中心としたGAPに重点を置いた、加工や販売までを視野に入れた教育を展開するようになりました。
- 家庭科（食品・保育）など、他教科と連携した横断的な教育が行われています。また、普通科を併置している学校では、農業選択科目を設置するなど、他学科との連携が行われるようになりました。
- 先進農家や農協、農業事務所などと連携した活動を進めています。
- 今後も都市部や郡部などの地域性を踏まえた更なる学科再構成の検討が必要です。
- アグリサポーターズちばの運営など、拠点校が中心となって行っている活動を他校にも積極的に拡充することで、学びの内容を更に充実させていくことが必要です。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・農業の学びを充実させるため、他学科との連携や教科横断的な学習を更に促進します。
- ・拠点校を中心としたGAPへの取組を他校でも検討するなど、実践的な生産工程を管理していく教育を更に充実させます。
- ・最先端の農業を学ぶために、スマート農業についての学びを更に充実させる必要があります。そのため、工業系の学科や大学等との更なる連携を図る必要があります。
- ・産業界と連携した人材育成について、インターンシップを更に充実させ、雇用就農の拡大を目指します。

GAP※₂ : Good Agricultural Practices の略。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。